

目次

<u>安全上のご注意</u>	1
<u>安全な取り扱い・設置</u>	3
<u>電気配線</u>	4
<u>設置方法および電気特性</u>	6
1. <u>設置</u>	6
1-1. <u>注意事項</u>	6
1-2. <u>設置条件（使用条件）</u>	6
1-3. <u>荷重性能（静荷重）</u>	7
1-4. <u>設置方法</u>	8
1-5. <u>アース（接地）の方法</u>	13
2. <u>電気接続</u>	13
2-1. <u>ケーブル仕様</u>	13
2-2. <u>コネクタ仕様</u>	14
2-3. <u>過電流保護装置</u>	14
2-4. <u>モジュール直列・並列接続</u>	14
2-5. <u>電気配線時の注意事項</u>	16
3. <u>太陽電池モジュールの電気特性</u>	16
3-1. <u>電気特性</u>	16
3-2. <u>温度特性</u>	16
3-3. <u>低照度特性</u>	17
4. <u>感電保護クラス</u>	17
5. <u>火災安全等級</u>	17
6. <u>対応パワーコンディショナ</u>	17
7. <u>防眩モデルと通常モデルの識別方法</u>	18
<u>パレット取り扱い注意説明</u>	19

安全な設置作業および安全にご使用いただくために必ずお守りください。

安全上のご注意

人やほかの人への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

誤った取り扱いをした場合に生じる危険とその程度を、次の区分で説明しています。

お守りいただく内容の種類を次の図記号で説明しています。

<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 10px;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div> <p>警告 人が死亡または重傷を負うおそれがある内容です</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div> <p>注意 けがや財産に損害を受けるおそれがある内容です</p> </div> </div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 10px;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div> <p>してはいけないこと</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div> <p>しなければならないこと</p> </div> </div> </div>
--	--

警告

太陽光発電システムでは高電圧・大電流となり、取り扱いを誤った場合には、死亡または大けがに結びつく可能性があります。

	<ul style="list-style-type: none"> ■ 発電中や製品がぬれているときは <ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽電池モジュールの正極と負極を短絡させない ・ コネクタを抜き差ししない (感電・発煙・発火のおそれがあります) ■ 製品のコネクタがぬれているときは乾燥するまで作業しない* ■ ぬれた道具を使用しない* ■ 金属製の首飾りなどを作業時に身につけない* <p>(* 感電のおそれがあります)</p> ■ 足場がぬれているとき、残雪があるとき、風が強いときは工事しない <p>(転倒や転落の原因になります)</p> ■ アレイケーブルを束ねた状態で使用しない、断熱材で覆わない <p>(ケーブルが高温になり発煙・発火のおそれがあります)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 持ち運びは2人以上でおこなう ■ 常にヘルメット、絶縁手袋、安全靴(ゴム底)を装着すること <p>(けがや感電のおそれがあります)</p> ■ 絶縁処理された道具を使用する <p>(感電のおそれがあります)</p> ■ 落雪で被害を受けないように施工する <p>(製品表面はガラスで覆われており、雪が滑りやすい状態です。人や物に損害をあたえるおそれがある場合は適切に雪止めなどの処置をおこなってください)</p>

束ねたままでの布設は禁止。

 注意	
	<ul style="list-style-type: none"> ■製品に素手で触れない (製品の枠は鋭く、けがをするおそれがあります) ■設置の間は不必要に製品に触れない (ガラス面や枠が熱くなり、やけどのおそれがあります) ■太陽電池モジュールの表面に影がかかる場所に設置しない (発電量が落ちたり、製品の不具合の原因になる場合があります)
	<ul style="list-style-type: none"> ■2m 以上の高所作業をおこなう場合は危険防止のため労働安全衛生規則に従うこと (転落のおそれがあります) ■屋根の上に設置する場合は、防火性能のある屋根の上に取り付ける ■異常が発生したら、すぐにパワーコンディショナを停止する (感電・発火のおそれがあります) ■太陽電池モジュールの設置により、太陽の位置や角度によって、近隣で光の反射による眩しさを強く感じる場合があります(眩しさについては個人差があります)。気象条件、設置条件、および見る角度によっては眩しさを感じる場合がありますので、近隣に配慮の上で設置してください。

- ◆設置工事中に異常を発見した場合は、速やかに工事を中断し、販売店または弊社までご連絡ください。
- ◆太陽電池モジュールの分解や改造をしないでください。枠に穴を開けないでください。
- ◆本設置工事説明書に記載されていない設置や加工は絶対におこなわないでください。設置施工に起因する一切の責任は負いません。
- ◆電気配線工事は、「電気工事業法」・「電気工事士法」・「労働安全衛生規則」・「電気設備に関する技術基準を定める省令」・「電気設備の技術基準の解釈」など関連する法令、規則に従ってください。なお、電気配線工事は、電気工事士の資格を保有した人がおこなってください。
- ◆本製品につきご不明な点がありましたら弊社販売窓口までご連絡ください。
- ◆予告なく製品の仕様、設置工事説明書を変更することがあります。あらかじめご了承ください。

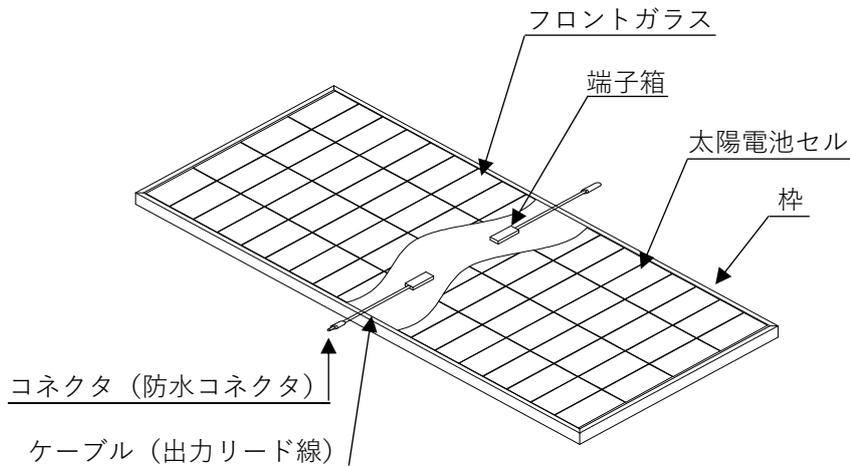


図 1. 太陽電池モジュール構成図

<安全な取り扱い・設置>

1. 太陽電池モジュールを水没させないでください。
2. 太陽電池モジュールのガラスは長期間、水にぬれた状態におかれると白くもりと呼ばれる外観を損ねる変質を起こし、出力が低下することがあります。そのため、継続的に水を浴びるような場所・方法での設置はしないでください。また、設置や配線作業時に、布状のものでモジュールを覆った状態で雨などの水分でモジュールの表面をぬれたままにしないでください。
3. 太陽電池モジュールを水平設置しないでください。
4. 枠の水抜き穴を塞がないでください。水の凍結膨張により、枠が変形する場合があります。
5. 水がたまる場所にケーブルを敷設しないでください。
6. 太陽電池モジュールに、鏡やレンズ、またはその他の方法で太陽光を人工的に集光して照射しないでください。故障や事故の原因になります。
7. 太陽電池モジュールを直列に接続する際は、モジュールの最大システム電圧およびパワーコンディショナの最大入力電圧を超えないようにしてください。
8. 太陽電池モジュールを直列に接続する際は、同じ設置方位・設置角度で、かつ、電気特性のうち電流値が同じ太陽電池モジュールを接続してください。設置方位・設置角度・電流値のいずれかが異なる太陽電池モジュールを直列に接続した場合、発電量が低くなる可能性があります。
9. 梱包状態で、雨天時の屋外などぬれるような場所には保管しないでください。また、敷設時に嵌合前のコネクタ内部に水が入らないよう十分に注意してください。太陽電池モジュールの汚損やコネクタ内部の腐食により、故障の原因になります。
10. 太陽電池モジュール開梱後は、速やかに架台への取付けおよび結線し、コネクタ内部への砂などの異物混入や金属腐食を防いでください。また、正極のコネクタに付属されている O リングには触れないでください。接続不良の原因となる可能性があります。
11. 振動・衝撃が少なく腐食性雰囲気の影響を受けない屋外環境でご使用ください。
12. 太陽電池モジュールのガラスに過度な負荷（モジュールの落下、モジュールへの異物落下、枠の曲げなど）をかけないようにしてください。故障の原因となります。また、ガラスが割れると危険です。
13. 太陽電池モジュールの裏面は薄いフィルムで傷つきやすく、かたいものが接触すると破損し、故障の原因となります。また、フィルムの傷つきによる故障は、長期間経過したのちに発生する場合があります。太陽電池モジュール裏面で作業をおこなう場合は、ヘルメットや工具などで裏面のフィルムを傷つけないようにしてください。
14. 端子箱をぶつけないでください。故障の原因となります。
15. ケーブルを強くひっぱったり、曲げたりしないでください。ケーブルが破損し、感電や漏電、断線を引き起こす可能性があります。
16. アース接続の場合を除いて、枠の表面塗装・絶縁皮膜を傷つけないでください。枠の劣化と枠組みの強度を損なうおそれがあります。
17. 太陽電池モジュールを運ぶ時は互いに向き合った 2 辺をしっかりとってください。枠の 1 辺だけを持つと枠が曲がるおそれがあります。
18. 小屋裏、壁内などでアレイケーブルの周囲を断熱材で覆うと放熱が妨げられるため、通電時に定格温度の 90°C を超える可能性があります。定格温度を超えないように施工してください。
19. 太陽電池モジュール設置の際、ケーブルの接続および取りはずしには確実にコネクタを持って抜き差ししてください。また、コネクタの接続時にはケーブルの長さを考慮し、無理にひっぱることのないよう接続してください。コネクタとケーブルおよびケーブルと端子箱の結合部分に過度の負荷が掛かると故障の原因

因となります。

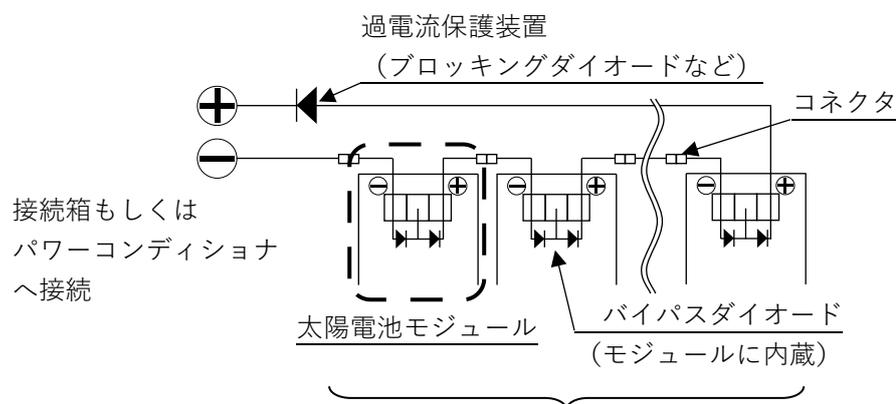
20. 太陽電池モジュール設置の際、コネクタのロック部の爪がカチッと鳴るまで確実に差し込んでください。
21. コネクタの嵌合部にテープや結束バンドなどを巻きつけないでください。ロック部に接触することでコネクタが抜けやすくなるおそれがあります。
22. コネクタにオイル、有機溶剤などの化学物質を使用したり付着させたりしないでください。樹脂の劣化や割れが発生し、故障の原因になります。
23. 設置するまでは、太陽電池モジュールは梱包材などの箱に入れたままにしておいてください。
24. 太陽電池モジュールは光を受けると発電するため、設置、配線している間は光を通さない布などでモジュールを完全に覆ってください。
25. コネクタは根元まで確実に差し込んでください。接続不良は、内部腐食、発熱、焼損の危険があります。
26. 高い所に設置する時、太陽電池モジュールや工具などを落とさないようにしてください。
27. 設置場所の近くで、可燃性のガスが発生していないか確認してください。
28. ガラス・太陽電池セルが割れるおそれがあるため、太陽電池モジュールの上に乗らないでください。
29. 単独で作業せず、2人以上の共同で作業してください。
30. 配線の際には、ケーブルに大きなたわみがあると、風などによりケーブルおよびコネクタが動いてしまう場合がありますのでケーブルを架台へ適切に固定する処理をしてください。
 - ・ 端子箱のケーブルがひっぱられないように支持してください。
 - ・ 結束バンドで固定する場合は、結束バンドが経年劣化で破断することがありますので高耐候性の結束バンドを推奨します。
 - ・ ケーブルを金属固定具で支持する場合は、食い込みによりケーブルが損傷するおそれのある針金や、ビニールタイなどを使用しないでください。
31. 水にぬれ続けたり、水が流れたり溜まるおそれのある場所にコネクタを固定しないでください。

<電気配線>

太陽電池モジュールは、パワーコンディショナの入力電圧に合わせ直列に接続してください（図2）。直列接続するには、正極のコネクタを次のモジュールの負極のコネクタに接続してください。

また、電気配線時には機器側から太陽電池モジュールに過大な電流が逆流してしまうことを防ぐために、ストリング（太陽電池モジュールを接続したもの）ごとに過電流保護措置を実施ください。過電流保護措置は、ヒューズの設置、ブロッキングダイオードの設置、パワーコンディショナもしくはMPPT装置の内蔵機能（過電流保護機能付き）の利用などにより実施ください。詳細については、「2-4. モジュール直列・並列接続」を参照ください。

配線の際にコネクタとケーブルの接続部および端子箱とケーブルの接続部に負荷がかからないようご注意ください。やむなくケーブルを45°以上折り曲げる場合、折り曲げを開始する位置は、コネクタとケーブルの接続部および端子箱とケーブルの接続部から最低50mm以上離してください。



太陽電池モジュールを直列接続したものをストリングと呼びます。

図2. 太陽電池モジュールの配線構成例

※本モジュールは端子箱内にバイパスダイオードを内蔵しておりますが、バイパスダイオードを取りはずせる構造にはなっていません。

設置方法および電気特性

<1. 設置>

1-1. 注意事項

- ・ 太陽電池モジュールの上に乗らないでください。
- ・ ガラス表面に付着した汚れを落とす時は、水拭きしてください。また、ブラシなど、かたいもので強くこすらないでください。
- ・ ガラス表面に油分が付着すると目立つことがあるため、できるだけ表面を触らないように取り扱いしてください。
- ・ 太陽電池モジュールはモジュール表面への荷重負荷により、図3のように凹状のたわみが生じます。その際、モジュール裏面や端子箱が架台や屋根などに接触すると破損するおそれがありますので、当該部分には十分な隙間を確保してください。

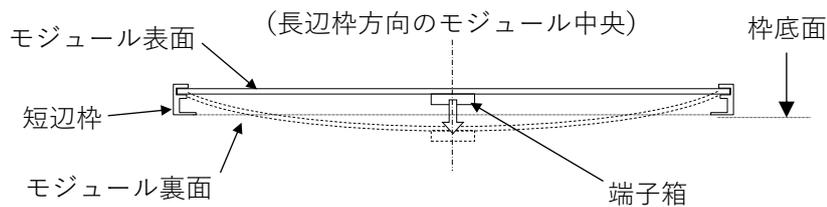


図3. モジュールのたわみ模式図（側面）

1-2. 設置条件（使用環境）

環境温度

下限： -40°C

上限： モジュール動作温度の98パーセントイル値 ($[T_{98}]_{max}$) が70°Cとなる温度

※目安：40°C（周囲温度が40°Cを超える場合があっても、 $[T_{98}]_{max}$ が70°Cを超えなければ、設置条件を満たします。）

※“ $[T_{98}]_{max}$ が70°Cとなる温度”とは、70°Cを超える時間は年間の2%以下であることを意味します。

環境湿度： ~100%RH

標高： ~2000m

1-3. 荷重性能（静荷重）

設置方法別の荷重性能は以下の表 1 のとおりです。クリップ固定での荷重性能は、固定位置によって異なります。固定位置の詳細は 1-4 節のクリップ固定方法をご確認ください。

表 1. 荷重性能（静荷重）

工法		絶対最大定格値 (Pa)	試験荷重 ^{※1} (Pa)	設計荷重 ^{※2} (Pa)
ボルト固定	正圧	2400	3600	2400
	負圧	2400	3600	2400
クリップ固定① (4/6/8 カ所固定)	正圧	2400	3600	2400
	負圧	2400	3600	2400
クリップ固定② (6/8 カ所固定)	正圧	2400	3600	2400
	負圧	3000	4500	3000
クリップ固定③	4 カ所固定	正圧	2000	3600
		負圧	2000	3600
	6/8 カ所固定	正圧	2400	3600
		負圧	2400	3600
クリップ固定④ (4/6 カ所固定)	正圧	2400	3600	2400
	負圧	2400	3600	2400

※1 IEC61215 および IEC61730 で規定される太陽電池モジュールの試験荷重
(試験荷重=1.5 [安全係数] × 設計荷重)。

※2 IEC61215 および IEC61730 で規定される太陽電池モジュールの設計荷重。

1-4. 設置方法

設置は、本説明書および、仕様書、図面（仕様書に記載）などを十分に確認し、以下の方法で実施ください。
以下の方法以外での設置はおこなわないでください。

※重塩害地域に設置される場合、電食防止のため、枠と架台間に電食防止用の部材を使用してください。

〔ボルト止めによる固定方法〕

図4（モジュール裏面図）と図5（ボルト止め部詳細図）に示すように、モジュール長辺枠のボルト穴Cの4ヶ所を使って架台へ固定してください（ボルト穴 φ9）。

以下の仕様の部品を推奨します。（推奨締付けトルク：12.5N・m）

- ・ ボルト・ナット ステンレス(A2) ボルト M8×20mm、ナット M8
- ・ ワッシャ ステンレス(A2) M8(内径 8.5/外径 15.5mm) 厚み 1.6mm
- ・ スプリングワッシャ ステンレス(A2) M8(内径 8.2/外径 15.4mm) 厚み 2mm

※ワッシャ・スプリングワッシャに代えて外径が同等のフランジ付きボルト・ナットも使用可能です。

※なお、強度および電食に十分留意の上、材料を選定ください。

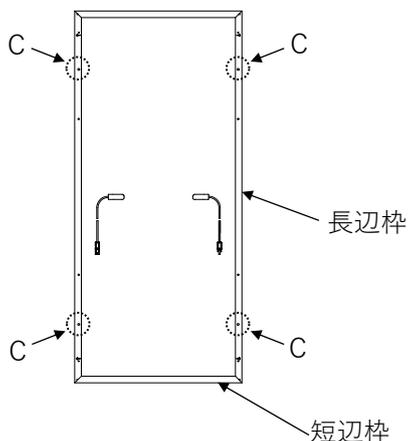


図4. モジュール裏面図

※穴位置については、仕様書をご確認ください。

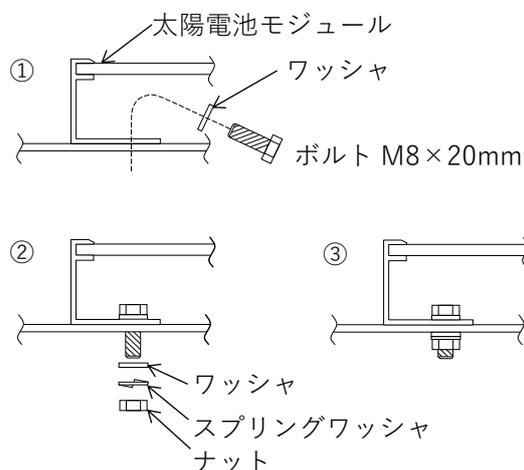


図5. ボルト止め部詳細図

※ボルトの固定方向は上下どちらからでも可能です。

〔クリップによる固定方法〕

モジュールの長辺枠をクリップで固定する方法です。クリップ、ボルト、架台レールの強度はモジュールの荷重性能を十分に満足するものを使用してください。

- ・ クリップ幅 30mm×押え幅 7mm 以上のクリップを使用し、モジュールの接触面を均一に圧力が加わるように固定してください。接触面の一部に不均一に大きな圧力を加えて固定すると、枠の変形や荷重性能の低下が生じるおそれがあります。
- ・ モジュールの長辺枠が固定するレールと平行になるように設置する場合、図 6-a に示すレール受け幅が 10mm 以上となるように設置ください。
- ・ M8 ボルト・ナットで固定する場合のクリップの推奨締付けトルクは 12.5N・m です。
- ・ クリップはガラスに接触しないものを使用してください。また、クリップの強度はモジュールの荷重性能を十分に満足するものを使用してください。
- ・ 電食に十分留意の上、材料を選定ください。

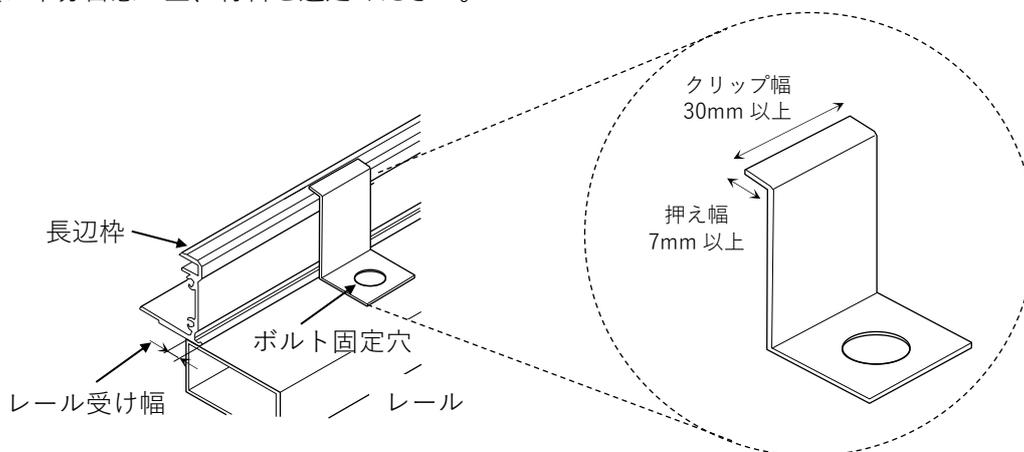


図 6-a. レールと長辺枠が平行の場合

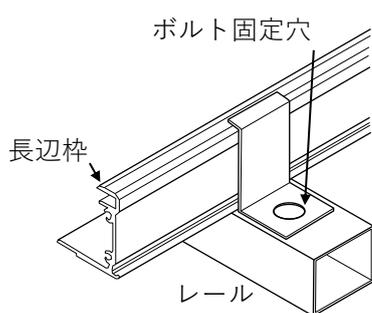


図 6-b. レールと長辺枠が垂直の場合

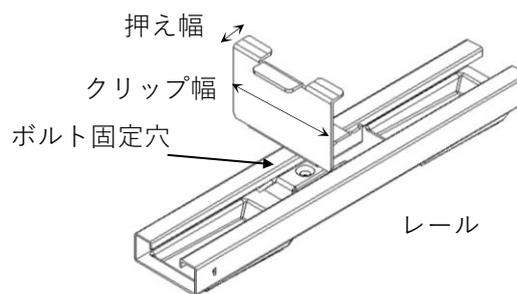


図 6-c. YSZ 工法の場合

◇ モジュールを 4 カ所で固定する場合

図 7 に示すように、クリップの位置が以下の範囲となるように固定してください。
固定位置により、表 1 のとおり荷重性能は変わります。

➤ クリップ固定①

$$\cdot 150 \leq e1 \leq 520 \text{ mm} \quad \cdot 150 \leq e2 \leq 520 \text{ mm} \quad ※1$$

➤ クリップ固定③

$$\cdot 30 \leq e1 \leq 520 \text{ mm} \quad \cdot 30 \leq e2 \leq 520 \text{ mm} \quad \cdot Ce \leq 1560 \text{ mm} \quad ※2$$

➤ クリップ固定④

$$\cdot e1 = 280, e2 = 281 \text{ mm} \quad \text{または} \quad \cdot e1 = 380, e2 = 381 \text{ mm} \quad ※3$$

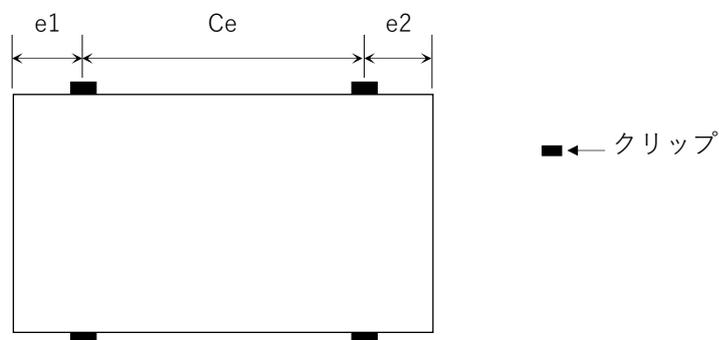


図 7. 4 カ所で固定する場合

- ※1 シャープの標準工法である DC(立平、横葺き、はぜ折板)工法、スマートラック工法、YSZ 工法に対応。横置き限定。
- ※2 シャープの標準工法である DC(立平、横葺き、はぜ折板)工法、YSZ 工法に対応。横置き限定。
- ※3 シャープの標準工法である DC 重ね折板工法のみに対応。横置き限定。

◇ モジュールを 6 カ所で固定する場合

図 8 に示すように、クリップの位置が以下の範囲となるように固定してください。
 固定位置により、表 1 のとおり荷重性能は変わります。

➤ クリップ固定①

- ・ $150 \leq e1 \leq 520 \text{ mm}$
- ・ $150 \leq e3 \leq 520 \text{ mm}$
- ・ $630 \leq e1+e2 \leq 1150 \text{ mm}$
- ・ $300 \leq e2 \leq 1000 \text{ mm}$
- ・ $300 \leq Ce \leq 1000 \text{ mm}$

または、

- ・ $0 \leq e1 \leq 300 \text{ mm}$
- ・ $150 \leq e3 \leq 350 \text{ mm}$
- ・ $450 \leq e2 \leq 1000 \text{ mm}$
- ・ $450 \leq Ce \leq 1000 \text{ mm}$

➤ クリップ固定②

- ・ $150 \leq e1 \leq 350 \text{ mm}$
- ・ $150 \leq e3 \leq 350 \text{ mm}$
- ・ $630 \leq e1+e2 \leq 1150 \text{ mm}$
- ・ $300 \leq e2 \leq 890 \text{ mm}$
- ・ $300 \leq Ce \leq 890 \text{ mm}$

➤ クリップ固定③

- ・ $30 \leq e1 \leq 520 \text{ mm}$
- ・ $30 \leq e3 \leq 520 \text{ mm}$
- ・ $630 \leq e1+e2 \leq 1150 \text{ mm}$
- ・ $300 \leq e2 \leq 1000 \text{ mm}$
- ・ $300 \leq Ce \leq 1000 \text{ mm}$

➤ クリップ固定④

- ・ $e1 = 280, e3 = 281 \text{ mm}$
 - ・ $630 \leq e1+e2 \leq 1150 \text{ mm}$
- または、
- ・ $e1 = 380, e2 = 500, e3 = 381 \text{ mm}$

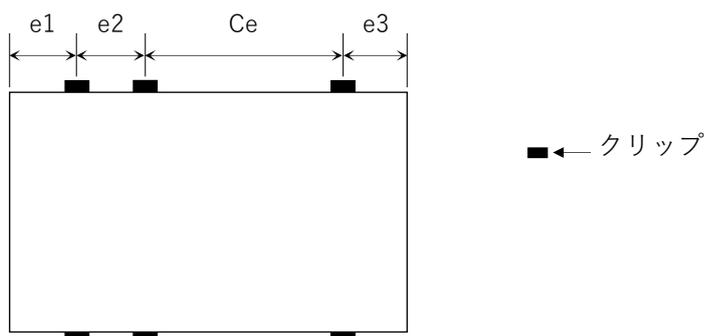


図 8. 6 カ所で固定する場合

- ※1 シャープの標準工法である DC(立平、横葺き、はぜ折板)工法、YSZ 工法に対応。横置き限定。
- ※2 シャープの標準工法である DC(立平、横葺き、はぜ折板)工法、スマートラック工法、YSZ 工法に対応。横置き限定。
- ※3 シャープの標準工法である DC 重ね折板工法のみに対応。横置き限定。

◇ モジュールを 8 カ所で固定する場合

図 9 に示すように、クリップの位置が以下の範囲となるように固定してください。
 固定位置により、表 1 のとおり荷重性能は変わります。

➤ クリップ固定①

- ・ $150 \leq e1 \leq 520 \text{ mm}$ ・ $300 \leq e2 \leq 770 \text{ mm}$
- ・ $150 \leq e3 \leq 520 \text{ mm}$ ・ $300 \leq e4 \leq 770 \text{ mm}$
- ・ $300 \leq Ce \leq 770 \text{ mm}$

または、

- ・ $0 \leq e1 \leq 300 \text{ mm}$ ・ $300 \leq e2 \leq 770 \text{ mm}$
- ・ $0 \leq e3 \leq 300 \text{ mm}$ ・ $300 \leq e4 \leq 770 \text{ mm}$
- ・ $300 \leq Ce \leq 770 \text{ mm}$ ・ $410 \leq e1+e2, e3+e4 \leq 850 \text{ mm}$

※1

➤ クリップ固定②

- ・ $0 \leq e1 \leq 250 \text{ mm}$ ・ $300 \leq e2 \leq 720 \text{ mm}$
- ・ $0 \leq e3 \leq 250 \text{ mm}$ ・ $300 \leq e4 \leq 720 \text{ mm}$
- ・ $300 \leq Ce \leq 720 \text{ mm}$ ・ $410 \leq e1+e2, e3+e4 \leq 850 \text{ mm}$

※2

➤ クリップ固定③

- ・ $30 \leq e1 \leq 520 \text{ mm}$ ・ $300 \leq e2 \leq 780 \text{ mm}$
- ・ $30 \leq e3 \leq 520 \text{ mm}$ ・ $300 \leq e4 \leq 780 \text{ mm}$
- ・ $300 \leq Ce \leq 780 \text{ mm}$ ・ $410 \leq e1+e2, e3+e4 \leq 850 \text{ mm}$

※1

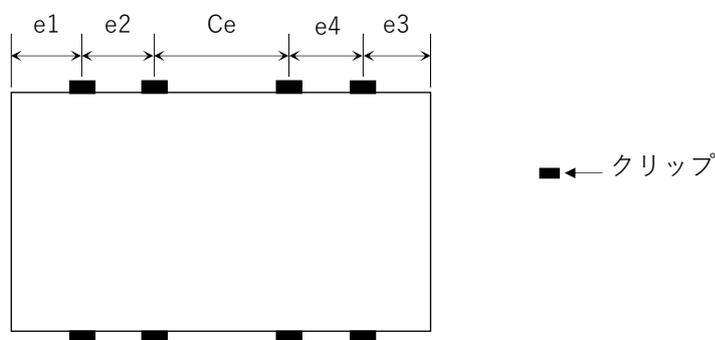


図 9. 8 カ所で固定する場合

※1 シャープの標準工法である DC(立平、横葺き、はぜ折板)工法、YSZ 工法に対応。横置き限定。

※2 シャープの標準工法である DC(立平、横葺き、はぜ折板)工法、スマートラック工法、YSZ 工法に対応。横置き限定。

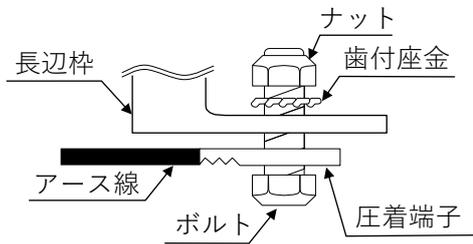
1-5. アース（接地）の方法

太陽電池モジュールは、アースする必要があります。

- ・ アース工事については、「電気設備に関する技術基準を定める省令」および「電気設備の技術基準の解釈」にもとづき適切な種類の接地工事を実施ください。
- ・ メンテナンスなどでモジュールを外した場合も、他のモジュールのアースが確保されるようにしてください。
- ・ アースは、以下の方法で実施ください。

〔太陽電池モジュールの枠にアースをする場合〕

モジュール長辺枠のアース用ボルト穴に圧着端子を介し、M4 または M5 のボルト・ナットでアース線を取り付けてください。アース接続例を図 10 に示します。なお、アース取り付け部分のモジュール枠に水が溜まるおそれがある場合は、設置時に高所側となるアース穴を用いることを推奨します（アース穴 φ5.1）。



※亜鉛めっきクロメート処理されたボルト・ナットやステンレスボルトなどの使用を推奨します。なお電食に十分留意の上、材料を選定ください。

図 10. 枠にアースを接続する例

<2. 電気接続>

2-1. ケーブル仕様

本モジュールに使用しているケーブルの仕様は、次のとおりです。

- ・ ケーブル種（適用規格）： 62930 IEC131 ケーブル（IEC62930 準拠）
- ・ 導体断面積： 4.0mm²
- ・ 定格温度： 90°C以上

延長ケーブルを使用される場合は、以下を参考に設置する距離や設置環境に合わせて適切なケーブルを採用ください。

◇ システム電圧 600V 以内の場合：

600V CE/F（EM-CE）または 600V CV で電気用品安全法（PSE）に準拠したケーブルもしくは「電気設備の技術基準の解釈」第 46 条 1 項一～六に準拠したケーブル（通称 46 条対応ケーブル）で、以下の仕様を満たすもの。

- ・ 導体断面積： 3.5mm² 以上
- ・ 定格温度： 90°C以上

◇ システム電圧が 600V を超えて 1000V 以下の場合：

「電気設備の技術基準の解釈」第 46 条 1 項一～六に準拠したケーブル（通称 46 条対応ケーブル）で、以下の仕様を満たすもの。

- ・ 導体断面積： 3.5mm² 以上

- ・ 定格温度 : 90°C以上

※延長ケーブルが長い場合、導体断面積が小さいとケーブルの抵抗による電力損失（発電量低下）や発熱を引き起こします。この点を十分に考慮の上、適切な導体断面積のケーブルを選定ください。

2-2. コネクタ仕様

本モジュールは、以下のコネクタを使用しています。

- ・ SMK 株式会社製 PV-05

本モジュールと接続可能なコネクタは、以下になります。

- ・ SMK 株式会社製 PV-03
- ・ SMK 株式会社製 PV-05

※コネクタの O リングが正しく装着されていることを確認した上で結線してください。

2-3. 過電流保護装置

本モジュールのストリングに使用できる過電流保護装置は、①および②のいずれかとなります。

① ヒューズ

- ・ 型式 : IEC60269-6 による太陽光発電 (PV) 用の「gPV」ヒューズ
- ・ 定格電圧 : 当該アレイにおけるシステム電圧（定格値）の 1.25 倍以上
(1.25 倍：最低推定動作温度が-40°Cの場合)
- ・ 定格電流 (In) : 24.0A（短絡電流の 1.5 倍）超 ~ 25A 以下
- ・ 協約溶断電流 (If) : 定格電流の 1.35 倍
- ・ 協約時間 : 2 時間

② ブロッキングダイオード

- ・ 逆方向電圧 : 当該アレイにおけるシステム電圧（定格値）の 2.5 倍以上
(2.5 倍：1.25 倍[最低推定動作温度が-40°Cの場合]の 2 倍)
- ・ 順方向電流 : 23A（短絡電流の 1.4 倍）以上

2-4. モジュール直列・並列接続

直列接続数および並列接続数は、本節の注意に加え、2-5 に記載の注意事項、「電気設備に関する技術基準を定める省令」、「電気設備の技術基準の解釈」およびシステムに使用される接続箱・パワーコンディショナの機器の仕様などの関連情報を確認の上、決定してください。

※誤った接続により、最大過電流保護定格を超える過電流が発生した場合、太陽電池モジュールが損傷するおそれがありますので、下記に従ってください。

◇ 最大直列構成：後述の表 2 に記載。

◇ 最大並列構成：

① 2 本のストリングを並列接続する場合（図 11）；

各ストリングに過電流保護装置を接続せずに、パワーコンディショナもしくは MPPT 装置などの機器へ接続することができます。

※パワーコンディショナもしくは MPPT 装置などの機器仕様をご確認いただき並列接続したストリング

に、機器からの電流が逆流しない構成としてください。なお、ヒューズは電流が逆方向にも流れるので、ヒューズの挿入のみでの対応は不可です。

② 3本以上のストリングを並列接続する場合（図12）；

各ストリングに必ず、2-3に記載の過電流保護装置を接続し、過電流保護措置をしてください。

※推奨最大並列数は1です。

※並列接続するストリングは、モジュール台数を同じ数にしてください。

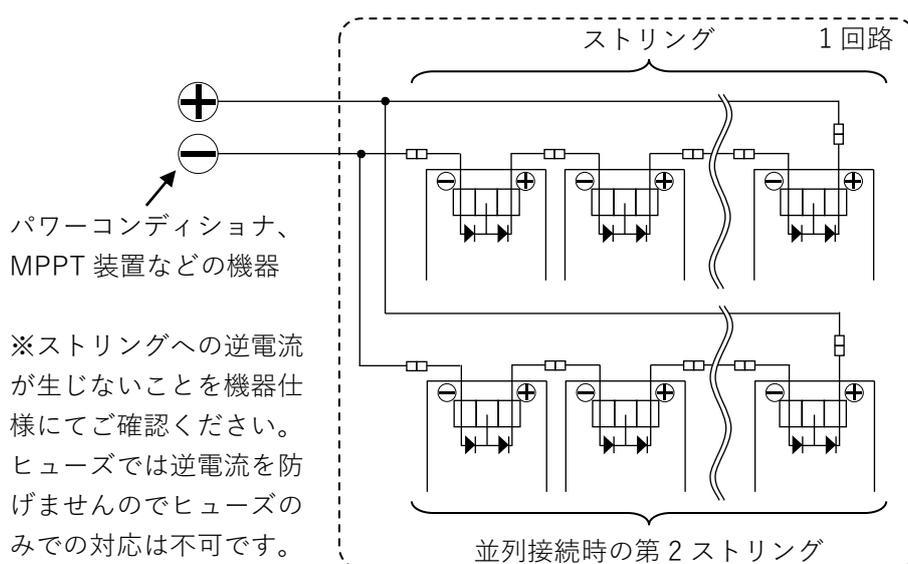


図11. 2本のストリングを並列接続する場合

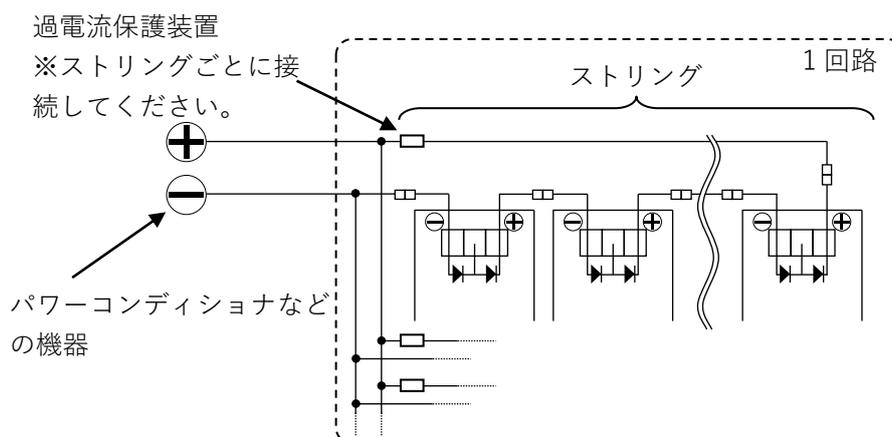


図12. 3本以上のストリングを並列接続する場合

2-5. 電気配線時の注意事項

太陽電池モジュールは、光の照度や温度など周囲の環境により出力が変動し、基準状態の値である公称値(表2)より大きな電流および電圧を出力することがあります。したがって、モジュールに接続する機器(パワーコンディショナなど)を選定する際は、安全係数 1.25 をモジュールの短絡電流および開放電圧の公称値に乗じた値を、機器の定格電圧および定格電流の基準としてください。

電圧に対する安全係数は設置場所の最低温度に応じて変更することができます。また、電流に対する安全係数も入射光強度に応じて変更することは可能ですが、入射光強度については設置場所や設置方位、設置角度などによる包括的なシミュレーションをおこなってください。

<3. 太陽電池モジュールの電気特性>

3-1.電気特性

本モジュールの電気特性を表2に示します。表2の値は、基準状態での公称値となります。

※基準状態とは、モジュール温度 25°C、放射照度 1000W/m²、分光分布 AM1.5 の状態を指します。

公称値に対する公差(上限・下限)は以下のとおりです。

- ・ 最大出力 (Pmax) : 上限 +10% / 下限 -10%
- ・ 開放電圧 (Voc) : 上限 +5% / 下限 -5%
- ・ 短絡電流 (Isc) : 上限 +5% / 下限 -5%

表 2. モジュールの電気特性

機種名 NU-300MU							
公称 最大出力	公称 開放電圧	公称 短絡電流	公称 最大出力 動作電圧	公称 最大出力 動作電流	最大 システム 電圧	最大 過電流 保護定格	推奨 最大 直列数*
Pmax	Voc	Isc	Vmpp	Impp			
300W	23.92V	15.98A	19.90V	15.08A	1000V	25A	33

※推奨最大直列数は以下の計算で求めています(小数点以下切り捨て)。

$$\text{推奨最大直列数} = \text{最大システム電圧} \div (\text{公称開放電圧} \times 1.25)$$

(1.25: 最低推定動作温度が-40°Cの場合の安全係数)

3-2. 温度特性

本モジュールの温度特性を表3に示します。

表 3. モジュールの温度特性

機種名	温度係数*		
	最大出力	開放電圧	短絡電流
NU-300MU	-0.290%/°C	-0.243%/°C	0.046%/°C

※温度係数は公称値です。

3-3. 低照度特性

本モジュールの低照度特性を表4に示します。

表4. モジュールの低照度特性

機種名 NU-300MU					
放射照度	公称 最大出力 Pmax	公称 開放電圧 Voc	公称 短絡電流 Isc	公称 最大出力 動作電圧 Vmpp	公称 最大出力 動作電流 Impp
800W/m ²	241.06W	23.74V	12.87A	19.75V	12.21A
600W/m ²	180.93W	23.56V	9.67A	19.60V	9.24A
400W/m ²	120.21W	23.38V	6.44A	19.45V	6.19A
200W/m ²	59.09W	23.20V	3.18A	19.30V	3.07A

<4. 感電保護クラス>

本モジュールは、IEC61730に規定されるクラスII*に適合します。

※クラスIIのモジュールは立ち入りを制限しない区域に使用することができます。

<5. 火災安全等級>

本モジュールは、JIS C8993に規定される火災安全等級Cに適合します。

<6. 対応パワーコンディショナ>

本モジュールの電流仕様に合ったパワーコンディショナを選定してください。

弊社製パワーコンディショナを使用する場合は、表5に対応するパワーコンディショナを使用してください。

表5. 弊社製パワーコンディショナ対応表

蓄電池連携型パワーコンディショナ		太陽電池専用パワーコンディショナ	
機種名	使用可否	機種名	使用可否
JH-59TF4 JH-40TF2	○	JH-55TP4 JH-20TP1	○
JH-55NF3 JH-40NF2	×	JH-55SP4 JH-30SP1	○
JH-55KF4B	×	JH-55RP4	×

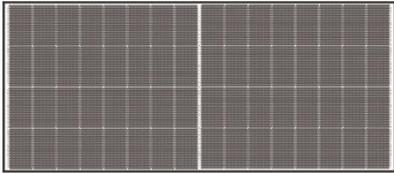
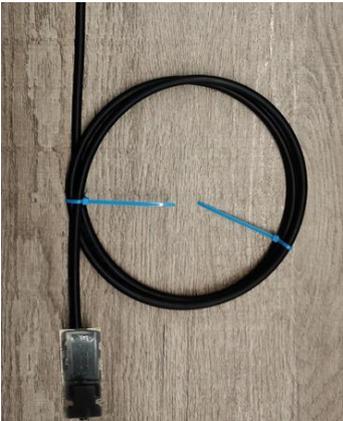
※上記以外のパワーコンディショナには使用できません。

<7. 防眩モデルと通常モデルの識別方法>

本モジュールは防眩ガラスを採用した防眩モデルであり、北面への設置が可能です。通常の低反射ガラスを採用し、北面への設置ができない通常モデルとは、電気特性や外観が異なりますので、同じ設置面に混在して設置しないでください。

防眩モデルと通常モデルは、外観や、梱包デザイン、銘板が異なります。防眩モデルと通常モデルの違いを表6に示します。

表6. 防眩モデルと通常モデルの違い

	防眩モデル	通常モデル
形名	NU-300MU	NU-305PU
北面設置	○	×
外観	 <p>モジュール全体が白っぽく見える</p>	 <p>(セルがそのまま見える)</p>
梱包材表記	防眩モデル表記あり	-
銘板	防眩モデル表記あり	-
結束バンド	 <p>ケーブルのコネクタ付近にも結束バンドを取り付け</p>	

パレット取り扱い注意説明

パレットの取り扱いに関しては、以下の内容に注意してください。

1. パレットは重量物ですので、取り扱いに注意してください。
2. パレットを移動させる際は、パレットよりツメの長いフォークリフトを使用してください。
3. パレットを移動させる際は、フォークリフトのツメ幅を適切な幅に設定してください。
4. パレットを移動させる際は、衝撃を与えないよう、取り扱いに注意してください。
5. パレットを置く際は、水平な場所に置いてください。
6. パレットを再梱包する際は、適切に包装してください。
7. パレットの上に重量物を載せないでください。

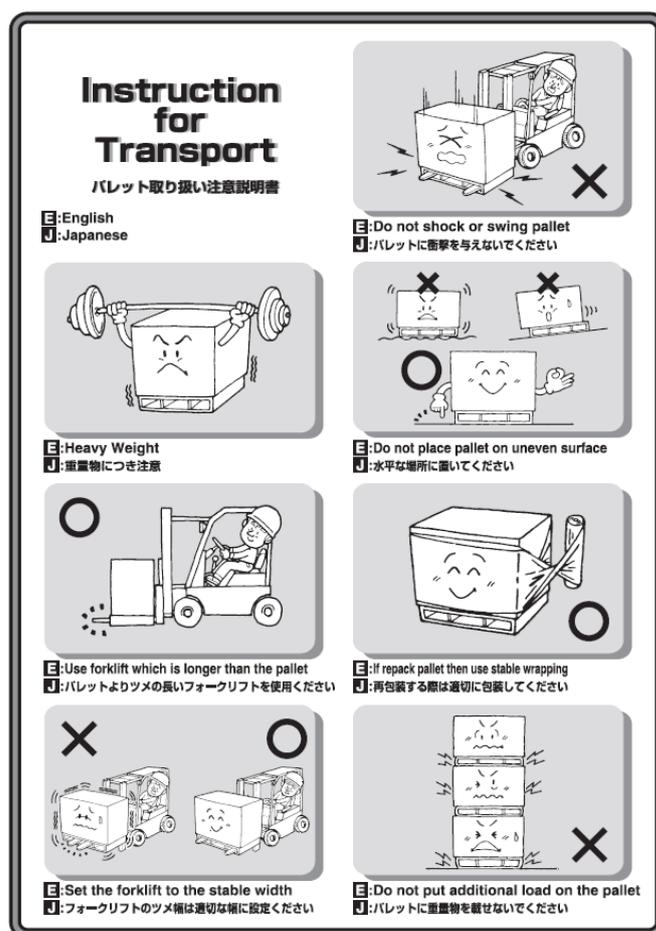


図 13. パレット取り扱い注意説明

【製造元】

シャープ株式会社

〒590-8522 大阪府堺市堺区匠町 1 番地

SIMA1AH2

2602